

## 結核患者様の治療をお引き受けします

西福岡病院には結核病床が 58 床（うち 28 床休床。実稼働 30 床）あり、入院での結核治療が可能です。また外来でも結核治療を行なっています。結核が疑われ、当院での加療をご希望の際は、喀痰の抗酸菌塗抹・培養検査、結核菌 PCR 検査（核酸増幅法）を行ない、以下の点にご留意の上、ご相談ください。

### 1) 喀痰抗酸菌塗抹陽性、PCR 陽性

結核と診断され、治療が必要です。感染症法の入院勧告、および公費負担の対象となる方です。感染性も高いので、入院の上治療を開始します。

但し、治療にも関わらず症状が安定していない精神疾患をお持ちの方、服薬を拒否される方、高度の認知症で治療の意義を理解できない方は当院で対応できない場合もございます。また専門的に高度な治療が求められる重篤な合併症をお持ちの方も当院では対応できない場合もあることをご了解ください。合併症については当院のソーシャルワーカーからお尋ねします。

### 2) 喀痰抗酸菌塗抹陰性、PCR 陽性

結核と診断され、結核の治療が必要です。しかし、塗抹陽性に比べて、感染性は低いので、外来治療になる場合があります。入院治療にするか、外来治療にするか画像所見などを参考にして判断します。

### 3) 喀痰抗酸菌塗抹陽性、PCR 陰性

非結核性抗酸菌症の可能性が高いと考えられます。ただちに入院する必要はありませんが、治療が必要かどうか今後の精査が必要となります。

### 4) 喀痰抗酸菌塗抹陽性、PCR 検査の結果がまだでていない場合

現時点の診断は抗酸菌感染症ですが、結核とは確定できていません。PCR 陽性であれば感染性の高い結核と診断されます。通常 PCR 検査が陽性と判明した後で、結核病棟に入院していただくことになります。但し、臨床的に結核が強く疑われ、結核病棟内に空床個室がある場合は、PCR の結果を待たずに入院をお引き受けしています。しかし、最終的に PCR が陰性と判明することもあります。そのような場合は結核ではなく、非結核性抗酸菌症として一般病棟に転棟していただきますが、治療せずに経過観察のために元の病院にお帰りいただくこともあることを、あらかじめご本人やご家族の方に説明しご了解をいただいでください。

### 5) 喀痰抗酸菌陰性、PCR 陰性

現時点で結核の可能性は低いと考えられますが、最終的に培養の結果をまって診断することになります。画像から結核が疑われる場合はご相談ください。

#### 粟粒結核や結核性胸膜炎が疑われる場合

喀痰塗抹陽性とならない可能性があり、感染症法の入院勧告にあてはまりませんが、入院治療が必要になりますので、疑われる場合はご相談ください。

#### 施設入所中の方

嘱託医の先生におかれましては、一般患者様と同じように、上記基準にしたがって喀痰検査を行なっていただき、当院にご相談ください。

#### 結核の発生届け

結核を最初に診断した医師が結核発生届けを作成・提出することになっています。当院に転院になる前に患者様の現住所を管轄する保健所に届け出をお願いします。

#### 治療後の転院

治療により、感染性がなくなった時点で、自立生活が困難である場合は、紹介していただいた病院に転院をお願いすることがあります。ご協力をお願いします。

#### 当院へのご連絡

西福岡病院（092-881-1331）地域連携室に電話でご連絡ください。

平日 8:30～17:00

土曜日 8:30～12:30

2019年5月 日

医療法人西福岡病院 院長 渡辺憲太郎

呼吸器内科